



台風10号がとても心配です。ぜひ、最善の対策をお願いいたします。

## 想像力を最高レベルまで働かせてください

8月29日、本来であれば2学期始業式の日。子どもたちが学校へ帰ってくる日でした。

台風10号の熊本への接近もしくは上陸を目の前に、熊本市の小中学校は全校休校の措置。自然への畏敬の念を感じざるを得ません。自然は、私たちの生きる基盤であり、豊かな人生を支える環境です。ただ、自然は私たちの都合などは聞いてくれず、最大の危機をもたらすものであることを、このような機会に改めて思い返させてくれます。自然をどうかしようというそのおごりを、その慢心をいさめなければいけません。

結局、自然災害に対しては、対応するしか方法がない。

想像力を働かせて、対応するしかない。そして、この対応は事前の準備がすべてであってほしい。もちろん、災害が起きてしまった後の対応も必要な場合があります。しかし、すべての対応が事前の準備であることを目指さなければいけません。

人は、どんな危機が起きた時にも、自分だけは大丈夫と思いがちです。映画のヒーローのように、剥がれ落ちたがれきは自分をよけて違うところに落ちると思ってしまう。これを、「正常性バイアス」というそうです。自然災害や火事、事故、事件など、自分にとって何らかの被害が予想される状況下にあっても、それを正常な日常生活の延長上の出来事として捉えてしまい、都合の悪い情報を無視したり、「前例がない」「自分は大丈夫」「今回は大丈夫」「まだ大丈夫」などと過小評価したりする、このような心の働きが「正常性バイアス」。

「正常性バイアス」は、ある意味目の前の事態におおらかに向き合えるので自身の対応力をいかに発揮できるというよさもあります。私は大丈夫なので、心配はあまりない。

その逆に、心配性という心のもちようもありますね。私は常に運が悪い。だから、いつも最悪な事態が起きる。これもちょっと良くない心の動きだととらえられがちです。

でも、災害時には心配性の方がむしろいい、と私はいいたい。

今回、台風10号をめぐる目の前の出来事は、今まで経験したことのないことなのかもしれません。想像力にとって、それが一番の敵です。経験したことは想像できる。しかし、経験したことがないことを想像しなければならないのですから。

だから、心配性ぐらいがちょうどいい。

ありとあらゆる想像力を巡らし、リスクをヘッジする。災害対策はこれにつきます。ただ、子どもたちはこれが意外と苦手です。想像力は経験が大きく左右することは先に述べましたが、この具体的な経験が圧倒的に不足しているのが子ども。ここは、大人の出番です。ぜひ、ご家庭で自然災害について想像力を最大限に発揮した話し合いをできるだけ早めに、大人が想像できるたくさんの状況をもとに、絶対に災害が起きないその時までずっと続けてほしいと願っています。

9月2日には、何も被害がなかったとあふれる笑顔の子どもたちと会いたいと願っています。ただ、残念ながら、そうやっても起きてしまうのが自然災害だと思います。もし、この台風10号の影響なので心配なことがあった場合は、すぐに学校にもお知らせください。

